

税理士パソコン活用実践講座

パソコンによる

デ - タ処理の見方・作り方

第 3 回

期中の損益推移と分析

税理士

田中一志

期中の損益推移と分析

[頭の体操]

月次監査の過程で期中において、工場別・製品商品別に損益分析する場合に、パソコン会計ソフトでは設定方法に制約がある。

勘定奉行やP C A会計などの会計専用のパッケージ - ジソフトでは部門別計算などの高度な利用が出来ますが、工場が2ヶ所で、商品売買も扱っている場合などは、部門コードを使えば、入力に時間がかかるので利用法に工夫がいる。

「ひとひねり」

1. 会計ソフトの月次損益推移表を出力する。
2. 表計算excelに推移表を入力する。
3. 商品・製品別に原価構成の金額と百分率表をつくる。
4. 積み重ね棒で原価構成グラフを描く。
5. 百分率表のポイントは月次の推移に年計と前期計を比較することです。
6. このような部門別区分をすることは可能でしょう。

(単位：%)

	本社	工場	商品	合計
売上高	100	100	100	100
材料費計	38	35		37
労務費計	24	22		23
製造経費計	18	16		17
製造総利益	20	27		23

月次推移表からデ - タの入力をします。入力は一月ごとなのであまり手間はかかりません。

月次推移表 (単位千円)

11/4月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	75,222	76,430	80,802	84,200	87,130	84,907	79,134	0	0	0	0	0
材料費計	38	41	40	40	130	107	84	0	0	0	0	0
労務費計	24	22	22	22	22	22	22	0	0	0	0	0
製造経費計	62	63	62	62	152	129	106	0	0	0	0	0
製造総利益	13,204	13,419	18,800	22,198	72,600	74,830	78,028	0	0	0	0	0

労務費は合計を一括入力にします。

11/4月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	75,222	76,430	80,802	84,200	87,130	84,907	79,134	0	0	0	0	0
材料費計	38	41	40	40	130	107	84	0	0	0	0	0
労務費計	24	22	22	22	22	22	22	0	0	0	0	0
製造経費計	62	63	62	62	152	129	106	0	0	0	0	0
製造総利益	13,204	13,419	18,800	22,198	72,600	74,830	78,028	0	0	0	0	0

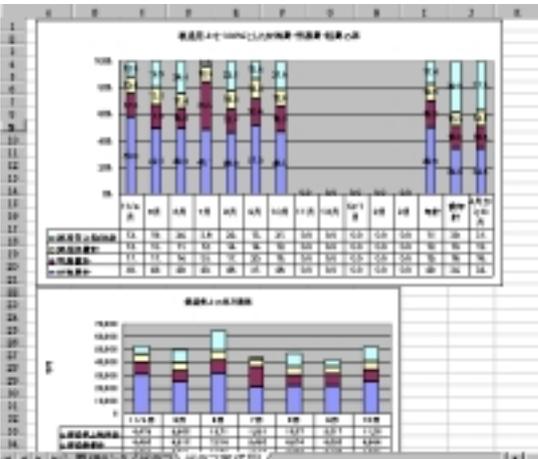
経費も同様です。

11/4月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	75,222	76,430	80,802	84,200	87,130	84,907	79,134	0	0	0	0	0
材料費計	38	41	40	40	130	107	84	0	0	0	0	0
労務費計	24	22	22	22	22	22	22	0	0	0	0	0
製造経費計	62	63	62	62	152	129	106	0	0	0	0	0
製造総利益	13,204	13,419	18,800	22,198	72,600	74,830	78,028	0	0	0	0	0

6 1 行の売上高の算式は「=D4-D6」です。

実数と百分率の表を作成します。

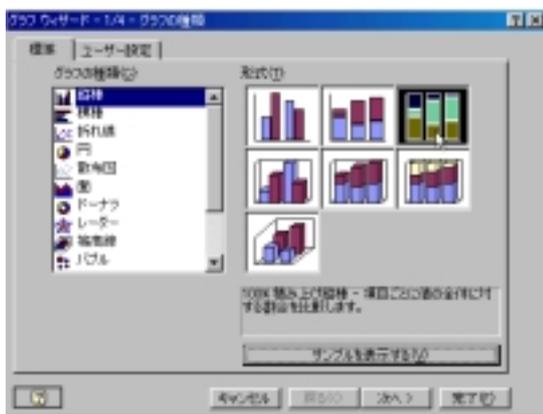
グラフの完成図は下記の通りです。
製造売上の原価構成の月次推移が各月と前年対比、前年同月と一覧できます。



商品売上でも実数と構成比です。

グラフ作成の方法は下記の通りです。

グラフウィザ - ドをクリックします。



デ - タラベルとかデ - タテ - プルを試してみます。値表示をするかどうかをプレビュー - しながら問題点の発見に取り組みます。データの分析能力は一覧できるグラフをどのように描けるかにかかっています。数字を頭の中で描くのではなく、五感をフルに駆使して、チャレンジしてください。パソコン会計ソフトでは分析のために3カ年間のデータを個々に持っているのですが、このようなグラフにあまりお目にかかれません。ひとひねりが必要です。